

平成 15 年度業務報告

平成 15 年度の事業につきましては、平成 15 年度事業計画にもとづき、次のとおり実施しましたのでご報告いたします。

会員数は、別表 1 (省略) のとおり、平成 16 年 3 月 7 日現在、正員 80,702 名、家族会員 4,051 名、准員 4,632 名の合計 89,385 名となっており、引き続き減少しております。

このような状況のなかで、昨年 6 月に開催された世界無線通信会議(WRC-03)において積極的な対応を行った結果、2009 年 3 月に 7MHz 帯に新たに 100kHz 幅の周波数が拡大されるという成果を得ることができました。また、アマチュア無線のデジタル化に向けて研究してきた D-STAR については、昨年 8 月の関係法令の改正、本年 1 月の施行を受けてアマチュア局として免許されたレピータ局の設置が一部地域で完了し、本格的な実用化に向けて動きははじめました。

財政改善の取り組みとしては、JARL NEWS を奇数月隔月発行としたほか、「JARL 改革委員会」を設置し幅広い見地からの検討を始めました。

1. アマチュアバンドの拡充と防衛

- (1) 平成 15 年 6 月 2 日から 6 日まで、スイス・ジュネーブで 85 カ国から 409 名が参加して無線通信総会 (RA-03) が開催されました。日本からは 29 名が派遣され、職員 1 名がその一員として出席しました。
- (2) 平成 15 年 6 月 9 日から 7 月 4 日まで、スイス・ジュネーブで 145 カ国、15 地域機関 (CEPT, APT, CITEL 等)、11 国際機関 (IARU 等) から約 2,300 名が参加して世界無線通信会議 (WRC-03) が開催されました。日本からは約 100 名の代表団が派遣され、JARL から JA1AN 原会長、JA1KAB 小室事務局長付および職員 1 名が日本政府代表団の一員として出席しました。
- (3) 平成 15 年 11 月 11 日から 12 日まで、タイ・バンコクでアジア太平洋通信共同体 (APT) の世界無線通信会議 (WRC-07) にむけた、第 1 回準備会合 (APG2007-1) が開催され、職員 1 名が出席しました。
- (4) 平成 15 年 11 月 24 日から 12 月 5 日まで、スイス・ジュネーブでアマチュア業務およびアマチュア衛星業務を所管する無線通信部門 (ITU-R) の第 8 研究委員会 (SG8) の関連会合が開催され、職員 1 名が出席しました。
- (5) 電力線搬送通信 (PLC) については、新たな動きである「PLC 設備の実験制度の導入」および内外の動向について引き続き注意を払っていくとともに、PLC 推進団体とも漏えい電波の抑圧技術等について定期的に会合を持ち打合せを行いました。また、新たに登場した電子タグ (RFID) については、430MHz 帯アマチュアバンドとの共用に関して実験を行うなど、積極的に対応してきました。そのほか、超広帯域通信方式 (UWB) についても総務省の諸会議に出席して情報の収集と対応策について検討を行いました。

2. アマチュア無線制度の改善

- (1) アマチュア無線のデジタル技術の導入に向けて、総務省に要望していた周波数の使用区別の改正、レピータ局のインターネット等の公衆網への接続の条件、電波型式の新表記などについては規則等が改正され、平成 16 年 1 月 13 日付けで施行されました。
- (2) 総務省に要望していた 50MHz 帯における EME (月面反射通信) については、関係告示が改正されたことにより、平成 16 年 1 月 13 日から運用できるようになりました。

3. 国際協力の推進

- (1) 平成 15 年 8 月 23 日から 24 日まで、東京ビッグサイトにて開催されたハムフェア 2003 に ARRL (米国の連盟) の職員の参加を求め、DXCC のフィールドチェックの協力を得ました。
- (2) 平成 15 年 8 月 23 日、RAST (タイの連盟) の創立 40 周年記念式典がタイ・バンコクにて開催され、JA9AG 吉井裕氏 (前 JARL 理事) が原会長の代理として出席しました。
- (3) 平成 15 年 11 月 28 日から 12 月 3 日まで、IARU 第 3 地域 ARDF 大会がオーストラリアのパララットにて開催され、JA8ATG 原理事を団長に選手団を派遣しました。なお、JA1HQQ 有坂参与

が IARU 第 3 地域 ARDF 委員長として参加しました。

- (4) 平成 16 年 2 月 16 日から 20 日まで、第 12 回 IARU 第 3 地域総会が台湾の台北市で 24 の加盟団体の代表が出席して開催され、JARL からは原会長、JH1HNH 海江田専務理事、JA1DM 海老沢参与、有坂参与のほか職員 2 名および第 3 地域事務局長として小室事務局長付が出席しました。
- (5) IARU 第 3 地域の STARS (アマチュア無線発展途上国の支援) タスクフォースとして教育資材をモンゴルとベトナムに送りました。
- (6) IARU 第 3 地域事務局を引き続き JARL 事務局内に設置しました。
- (7) IARU 第 3 地域に対し、引き続き侵入電波監視報告を行いました。
- (8) IARU の国際ビーコンプロジェクトを継続して行いました。
- (9) その他、来日した外国アマチュア無線団体首脳、関係者と意見交換を行い、友好を深めました。

4. アマチュア無線活動の育成強化

- (1) 各支部において、上級資格の国家試験受験のための指導講習会のほか、アマチュア無線に関する各種講習会、研究会などを開催しました。
- (2) モールス電信技能認定を平成 15 年 8 月のハムフェア 2003 会場(東京ビッグサイト)および平成 16 年 2 月に連盟事務局で実施しました。認定数と免状交付枚数は別表 2 (省略)のとおりです。
- (3) コンテストについては、別表 3(省略)のとおり 7 種類のコンテストを実施したほか、地方本部や支部主催によるコンテストを多数実施しました。また、ドナー制度による楯およびコンテスト・アワードを発行しました。
- (4) 情報通信の普及・振興をはかることを目的とした「情報通信月間」の行事に協賛して「第 11 回テレコム QSO パーティー」を実施するなどしました。
- (5) アワード発行については、別表 4 (省略)のとおり、国内アマチュア局 1,528 枚、SWL43 枚、海外アマチュア局 153 枚の合計 1,724 枚を発行し、このほか WAC アワードの代行申請を 79 件行いました。なお、DXCC フィールドチェックは、ハムフェア 2003 および関西アマチュア無線フェスティバルでのチェックを含め 478 件の申請を受け付けました。
- (6) レピータ局およびビーコン局を別表 5(省略)のとおり開設・運用しました。
- (7) 特別局・特別記念局を別表 6 (省略)のとおり開設し運用しました。
- (8) 2003 アマチュア無線フェスティバル(ハムフェア 2003)は、東京・有明の「東京ビッグサイト西 2 ホール」で、会期を平成 15 年 8 月 23 日、24 日の 2 日間として開催しました。「世界をめざそう! アマチュア無線」をキャッチフレーズに、WRC-03 で決まった 7 MHz 帯アマチュアバンドの拡大や電波型式の新表記、新アマチュアバンド使用区分、D-STAR、キューブサットに関する講演や展示、技術シンポジウム、モールス電信技能認定などを行い、来場者の注目を集めました。また、クラブやビジネス団体の展示や販売をはじめ、特別記念局 8N1HAM の運用や工作教室、イベントコーナー、DXCC デスク、JARL デスクのコーナーが設置され、会期中の来場者は延べ 28,000 人にのぼり、例年同様の賑わいとなりました。
- (9) ARDF 競技については、平成 15 年 10 月 26 日秋田県北秋田郡森吉町で「2003 全日本 ARDF 競技大会」を開催し、110 名(うちジュニア・クラスの高校生は 38 名)の参加がありました。また、地方 ARDF 競技大会については、別表 7 (省略)のとおり開催しました。
- (10) 技術関係
ハムフェア 2003 にアマチュア無線のデジタル化推進プロジェクトである D-STAR の無線機を展示しその普及に努めたほか、D-STAR のアプリケーションなどについて検討を行いました。
マイクロ波帯活性化の施策として「マイクロ波帯入門講座」を平成 16 年 1 月 18 日に JARL 事務局で開催しました。
自作機器の測定サービスや電話などによる技術相談を受け付けました。

5. 会員の増強と会員事業の改善

(1) 会員サービスの充実

会員専用の特別なカードとして平成 12 年 8 月から JARL カードを発行していますが、平成 15 年度はカード機能の充実を図るための第一歩として、このカード利用ポイントに JARL 会費を対象としました。なお、平成 16 年 3 月 31 日現在の発行枚数は、10,561 枚となりました。

アマチュア無線機器総合保険(アンテナ第三者賠償責任保険など 4 種類)のうち動産総合保険については、内容の一部見直しをはかり有益な会員サービスとして取扱いを継続できるようにしました。また、ホテル宿泊割引制度、パッケージ旅行割引制度などの会員特典の充実に努力しました。

JARL Web については、会員への有益な情報をいち早く伝達するため、コンテンツの逐次更新に努めるとともに、会員専用ページの機能については、個人情報保護のためセキュリティ強化を行うなど、内容の充実をはかりました。また、会員専用ページの利用登録者数は、平成 16 年 3 月 31 日現在 22,898 件となっています。

JARL Web 会員専用ページに会員検索機能を付加し、会員が QSL ビューロー経由で QSL(SWL) カードを発行する際の目安となるようにしました。なお、Eメール転送サービス利用者数は、平成 16 年 3 月 31 日現在 18,725 件となっています。

(2) 会員の増強

平成 15 年度会員増強キャンペーンは、平成 15 年 11 月 1 日～平成 16 年 1 月 16 日までの 2 ヶ月半の間で実施し、期間中 823 名の入会がありました。

QSL ビューローに到着した QSL カードのうち、一定枚数以上で現在会員でない方 259 名を対象に入会案内を送付した結果、25 名の入会がありました。

平成 15 年度の日本無線協会本部で開催された 3・4 級国試開催日程にあわせて、受験終了者へ連盟パンフレット等を配布し、入会促進活動を行いました。

会員の増加をはかるため、JARL、JAIA、(財)日本無線協会と協力してアマチュア無線の普及に努めました。

(3) QSL・SWL カードの転送

QSL・SWL カードの取扱処理枚数は別表 8(省略)のとおり、国内外合わせて約 1,306 万枚でした。

(4) 広報活動

JARL NEWS、点字 JARL NEWS などを発行し、会員や関係者の方々に配布しました。

CQ出版(株)の協力で、従来から行っていた CQ ham radio 誌での JARL からのお知らせページを、2003 年 8 月号から「FROM JARL」として 16 ページに増ページして、隔月発行となった JARL NEWS の補完ができるよう、情報の提供に努力しました。

電子情報サービスについては、次のとおり行いました。

(a) インターネットのホームページ「JARL Web」により、迅速な情報の提供および結果報告などを積極的に行いました。

(b) 「JARL Web」において、「THE JARL NEWS」(英文)ほか、英文による各種情報の提供を行いました。

アマチュア無線の PR 活動として、資格をこれから取ろうと考えている方や、興味は持っているがまだ、アマチュア無線が何かを知らない方々に、その楽しさと資格の取り方を簡潔に紹介したカラーリーフレットを制作し、クラブや支部などを中心に無償配布しました。

6. 組織および事業運営の合理化の推進

(1) JARL の事業運営と財政改善をはかるため、JARL NEWS の経費節減、QSL カードの転送制度の見直しなどを行ったほか、「JARL 改革委員会」を設置して幅広い見地からの検討を始めました。

(2) QSL 発送時の郵便料金大口割引制度の利用や宅配便を利用した QSL カードの発送により、引き続き転送経費の効率化に努めました。

7. 電波環境のクリーン化

- (1) アマチュア局からの電波障害対策依頼への対応を行ったほか、JARL Web に「電波障害の原因とその対策」を掲載しました。
- (2) アマチュア局が原因で障害を受けている一般の方々からの電波障害対策への対応を行いました。
- (3) ガイダンス局（特別業務の局）により、使用区別を逸脱（レピータ、衛星周波数を含む）している局、呼出符号の送出不完全な局および業務通信を行っている局に対して注意を喚起する電波による広報を行いました。
- (4) アマチュア局の運用指導、電波障害防止対策の指導などを実施しました。
- (5) H F 帯の侵入電波の調査を監査指導委員および会員の協力を得て実施し、定期的に総務省、IARU などの関係機関に報告しました。

8. アマチュア衛星など宇宙通信の促進

- (1) 「ふじ3号(F0-29)」、「ふじ2号(F0-20)」の機能の調整を行うとともに、全世界のアマチュア無線家に利用してもらうため、管理運用を行いました。
- (2) 平成16年 3月25 日から27 日まで、オランダのノードウィックにてARISS(国際宇宙ステーション内のアマチュア無線局の設備を開発・運用するためのプログラム)の会議が開催され、職員1名が日本代表として出席しました。
- (3) 青少年にアマチュア無線の楽しさや宇宙開発、通信技術への興味をかきたてる貴重な経験をしてもらうために昨年に引き続き、ARISS スクールコンタクトを推進し、国際宇宙ステーション内のアマチュア局と交信が行われました。

9. 非常災害時への態勢整備

前年度に引き続き、非常通信協議会および地方公共団体などとの非常通信に関する具体的な連携をはかりました。

10. JARD との連携

アマチュア無線の育成などの分野で JARD と協力して施策の推進をはかりました。

11. 身体障害者や小・中学校等の団体に対する援助・協力

身体障害者のアマチュア無線活動を充実したものとするため、点字 JARL NEWS を発行してアマチュア無線関連情報の周知に努めています。また、小・中学校および主たる構成員が身体障害者の団体が開設している社団局に対して助成金を交付するなど、積極的な援助活動を行いました。

12. そのほか

- (1) 理事会、評議員会をはじめ各種委員会などを、別表 9(省略)のとおり開催しました。
- (2) 刊行物事業については、2004-2005 年版 JARL 会員局名録の出版、アマチュア無線関係の申請書類などを頒布するとともに、ARRL DXCC リストの代理頒布を行いました。また、購入者の利便を図るため、一部販売品について楽天ブックス(株)との提携により JARL Web から注文できるようにしました。